

1. 調査報告概要表

作成日 2010年4月6日

【評価実施概要】

事業所番号	1070700214
法人名	NPO法人 お互いさまネットワーク
事業所名	グループホーム 喜楽
所在地	群馬県館林市成島町1829-5 (電話) 0276-70-1326
評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 22年 1月 19日

【情報提供票より】(21年12月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 9 月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	22 人
利用定員数計	18 人
常勤専任	11 兼務3人, 非常勤 9人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建て 1階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円

(4) 利用者の概要(4月1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	堀越医院 海宝病院 石井歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

認知症になったとしても、そのところをしっかりと捉えて寄り添いながら、その人らしい生活の継続と家族のような生活の支援がなされている。運営者の想いは職員の中に共有され、理念を背景にしたケアの統一がある。また利用者の家族に対しても気軽に意見、要望が言える雰囲気を作る努力をしている。利用者が家族と継続した関わりの中で生活できるように、ホームに来やすい行事などを工夫している。人間としての尊厳の意味からも利用者が一人になれる居場所が建物の中に作られており、常に見られて、観察されているのではなく、ほっと出来る空間の配慮の工夫もみられる。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	現状に即した介護計画の見直しでは随時の見直しと3ヶ月毎の見直しが行われている。また毎月のモニタリングも行われ改善されている。栄養摂取や水分確保の支援では全員の水分量の記録がなされ改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は職員に評価票をコピーして配り、職員の意見を会議に取り上げ意見を聞いている。職員は評価の意義を理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに定期的開催されている。参加者は家族代表、住民代表、市職員等が参加している。ホームからは運営者、管理者が参加している。転倒に関してのホームの工夫や避難訓練での地域住民の協力方法の検討等、運営推進会議を通してさまざまな取り組みがなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会があり年に2回集まりを持っている。アンケートや要望書などを通して家族の意見などの吸い上げを心がけている。家族会でホームに来る事が重荷だった家族から気持ちを打ち明けられ、家族の抱えている隠された気持ちを管理者・職員は検討し理解をする努力をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して育成会の廃品回収に協力している。また利用者と一緒に作ったクッキーを近隣の人達に配り、利用者も地域の一員である事を覚えてもらっている。地域の人もボランティアでホームに来たり得意な演奏や踊りなどを披露して、利用者を楽しませている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は職員で考え作成されたもので、認知症になっても地域の中でその人らしく暮らせる支援が謳われている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見えやすい場所に掲示されている。職員会議、毎日の申し送り等で復唱され介護に迷った時には理念に立ち返っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入していて、育成会の廃品回収に協力している。また近所の人に利用者さんを覚えてもらうために隔週クッキーを配り届けている。また近所の人にも災害訓練、ボランティアなどに来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の改善項目は職員会議で検討して改善に取り組んだ。今回の自己評価は職員に評価表を配り意見を聞いている。管理者がそれを取りまとめている。職員は評価の意義を理解している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的で開催されている。参加者は家族代表、住民代表、市職員、事業者、管理者が参加している。ホームより状況報告などされている。夜間の転倒事故などの報告もされ、それに対しての布団に鈴をつけたりなどの工夫も報告されている。避難訓練では地域の協力依頼がされており、協力方法の検討をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者は行政との連絡を密にとり講習会、出前講座などを行っている。運営者も相談など電話で行っており、行政と共にサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書を毎月郵送している。その中に個別のケア記録を同封している。また金銭管理は2ヶ月に一度請求書の中に同封している。職員の異動は年2回行われる家族会の時に報告をしている。年3回会報を事務方が作成し家族に郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年に2回開催されており、会での意見(入居している家族がホームに迷惑をかけているのでは?との想いなど)やアンケート、面会時の会話等から要望等を聞いて運営に反映させている		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切に考えて職員の異動は行わなかったが、事業所開設後9年目ではじめて職員の異動が行われ、職員にやや戸惑いが見られた。利用者への影響はそれほど感じられなかったが、利用者や職員との会話を多く持つようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は認知症に対する学習会を全職員に行っている。管理者は職員が希望する研修には希望を叶える努力を行っている。法人外研修、法人研修と積極的に職員を育てる取り組みをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入している。認知症サポーター研修など参加している。また施設としてもサポーター研修にかかわりを持ち協力している。事業者はPTAなどから依頼を受け講師として地域の人達に講義を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設を見学に来てもらい、家族、本人に施設の雰囲気を味わってもらおう。ホームとしても事前に本人と面接しこちらの顔を覚えてもらったりする。病院からの入居などにしても入所理由を家族、職員が共有して入居してから不安感を取り除く工夫をしている。納得してから入居してもらえるよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で職員は人生の先輩として利用者から教えてもらいながら共に生活している。掃除、味付け、料理の仕方、人への接し方など生活の知恵を教してもらい支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族より聞き取りその情報を元に本人の表情や言葉などから思いや意向の把握に努めている。その人の過去の生活を職員は大切にしながら記録し共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族と面接して意向の確認を行っている。担当者より意見を聞きケアマネジャーは次のプランの方向性を決めている。本人が同席も出来る。ケアプラン会議で全員で検討し計画を立てる。家族に郵送し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の見直しと随時の見直しが行われてる。毎月のモニタリングによりサービスの内容の検討評価がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院支援、入院時の支援、墓参り、自宅への訪問、親戚の家に出掛ける、買い物の支援など柔軟な対応がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医となっている。家族の希望により協力病院へ変更ができ、協力病院の往診がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応の指針による同意書が作成されている。主治医、家族、職員は情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録には利用者の氏名は記さない指導がされている。書類は目に触れない場所に保管されている。排泄時などの声掛けには小声で知らせている。職員は守秘義務を理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのパターンを大切にした支援が行われている。起床、就寝はさまざまで、新聞を読んだりお茶を飲んだり自分のペースで生活している。喫茶店にお茶を飲みに出掛けたり、ドライブで気分転換したり、職員はそれぞれ声を掛け支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	喜楽Ⅰは外部より食材を取り寄せている。喜楽Ⅱは食材を買いに行っている。利用者は味付け、下膳、調理、おしぼり配りなど一緒に行っている。利用者の希望したメニューは1日のどこかに取り入れられている。職員は利用者と一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合できめてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	喜楽Ⅰ(土)喜楽Ⅱ(火)が入浴休みになっている。基本的に週2回の入浴だが希望すれば休みの日でも入浴できる体制がある。シャワー、清拭などの対応もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割として洗濯干し・洗濯たたみ・清掃・料理・花の水やり・茶碗拭き・ぬかずけ等、楽しみごとには、踊り・演奏などの慰問、レクリエーション・読み聞かせ・クッキー作り・喫茶店でのお茶、気晴らしとしてドライブ・散歩・買い物等があり張り合いとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、クッキー配り、デッキでのお茶飲みなど戸外での活動を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかける事の弊害を理解している。鍵は掛けられていない。喜楽Ⅰは猫が居室に入り、いたずらをするので鍵を居室に掛けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回春と秋に避難訓練を行っている。地域の住民の協力体制が出来ている。地域の人は避難した利用者の見守りを行っている。消火訓練も行われている。1度は夜間想定訓練をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量とも記録がされている。食事量は10の単位で表されている。水分は一日の目標を1000ccから1500ccとしてトータル量が記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はテレビ、ソファ、テーブル、椅子があり、キッチンが見え、料理が出来上がる楽しみがある。猫が飼われていて利用者の間を動き回っている。広い窓からは外を見ることが出来る。個室の入り口は直接見えない工夫がありプライバシーが大切にされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものが持ち込まれて気持ちを落ち着かせている。鏡台、仏壇、写真、桐の箆笥、テーブル、椅子、書類など個性のある居室作りがされている。		